第７章
地区計画

大井地区

▶ 地区の概況

大井地区は、市内で人口が最も多く市の中核となる地域です。JR恵那駅があり、中央高速道路恵那ICにも隣接するとともに、2027年開業予定のリニア中央新幹線岐阜県駅（中津川市）とも近くなるため人の移動がより活発になることが見込まれます。中山道をはじめとする歴史的なまちなみや、恵那峡や田園風景等の自然豊かな景観がみられ、観光名所ともなっています。

○統計データ○（R4.8.31）

・人口	⇒	12,792 人
・世帯	⇒	5,545 世帯
・年少人口比率	⇒	12.4%
・高齢化率	⇒	30.1%
・民生委員児童委員	⇒	21 人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

○JR 恵那駅の周辺には、市の公共施設や医療機関、商業施設、飲食店があり、名古屋市などの都市への交通アクセスもよいため、利便性に優れています。

○中山道の古いまちなみや、大井城、大井宿等からは歴史を感じられ、観光資源にもなっています。

○大井行在所は建築史的にも貴重であり、地域の交流の場としても活用されています。

○恵那峡や傘岩、阿木川、大井ダム等を有する山紫水明な自然に恵まれています。また、令和２年３月には恵那峡がリニューアルされ、観光客を出迎えるためのビジターセンターや駐車場が新設されました。

○他の地区と比較して子どもが多く、小学校、中学校、高校等の教育機関が充実しています。

○水害などの災害が少ないため、安心して暮らせる環境となっています。

【地区の課題】

○アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」「総合的な福祉のまちづくりの推進」となっています。また、福祉に関する情報の入手や、災害時対策が課題となっています。

○区長、民生委員等の負担が大きく、新たに取り組みを行うのは難しい状況となっています。若者の地域活動の参加促進や、事業内容、組織体制についての検討が求められます。

○高齢者を対象として多くの事業を実施していますが、子育て支援、ひとり親家庭支援などの充実も求められています。

○個人情報等の関係で、自治会に加入していない高齢者（外国人等）等の安否確認ができず、支援を必要とする人の情報共有ができない状況となっています。

○デジタル化等、多様な手段での情報発信が求められています。

▶ めざす姿

歴史・文化・自然をおおいに活かした　大井町

▶ 今後の取り組み

①　若者の地域参加の促進・歴史、自然を活かしたまちづくり

地区の若者が集える場所や、若者が参加しやすいイベントなど、地域で若者が活躍できる環境をつくり、地域活動の活性化や若返りを図ります。また、学生など若者に福祉学習を積極的に取り入れることで若者の地域参加を促します。

歴史的まちなみである「東山道」「中山道」「行在所」や自然環境を保護する地域活動を通じて、住民同士のつながりの強化や、地域活動に参加しやすい地域づくりに取り組みます。

②　高齢者・子育て支援の充実

高齢者が集まる場所となるサロンやカフェなどの活動に取り組むほか、多世代交流によるボッチャ等の行事を通じて交流の機会や地域の子育て家庭が集まれる子育てカフェやサロン、さまざまな行事を通じて高齢者と交流ができる機会などを設け、安心して子育てができ、子どもがのびのびと成長できるまちづくりに取り組みます。また、経済状況が厳しい子育て世帯や生活困窮家庭に対しての支援に取り組みます。

③　地域のつながりの活性化・防犯、防災体制の強化

地域活動の活性化のため、自治会加入への働きかけや、区長、民生委員、自治会長等の若返り、各行事のボランティア確保、福祉委員の設置等の検討を図ります。また、地域の人にみんなで少し気にかける関係性を維持していきます。

地域内に空家が増えるなど、防犯に対する危機意識が高まっています。地域の見守りやパトロール、地域と福祉が協力して防災講演会を一緒に行うことで防災力の強化を図ります。また、災害時の避難に支援が必要な人を把握し、地域で支援できる体制づくりを進めます。

④　情報発信の充実

福祉などに関する情報を身近で入手できるよう、行政や支部社協、地域の団体と協力し、SNS 等を活用した情報発信体制の充実を図ります。

長島地区

▶ 地区の概況

長島地区は、市内で人口が２番目に多く、中央自動車道恵那 IC、多様な商業施設、飲食店を有し生活環境が整っているため大井地区とともに市の中核的な地域となっています。一方で農村地区や、中山道、西行遺跡、正家廃寺跡、多くの古墳等の歴史的資源も残り、都市機能と文化、自然が共存する地域です。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	9,337 人
・世帯	⇒	3,959 世帯
・年少人口比率	⇒	12.4%
・高齢化率	⇒	30.0%
・民生委員児童委員	⇒	21 人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇市街地や住宅地等の都市的な面と、田園地帯や山地、河川などの自然を感じられる面、どちらの良さも感じられる居住環境となっています。

〇交通アクセスや買い物などの生活の利便性に優れています。また学校、病院、図書館、市役所、警察等の公共施設が多く、市の中核的な機能が集積しています。

〇高齢者をはじめとして活動的な住民が多く、ボッチャのまち長島として軽スポーツを通じ、多世代交流を図っています。

〇子どもや若い住民が多く、認定こども園や学校、図書館、こども元気プラザ、学習塾等の子育てを支援する施設が整っています。また、見守り活動やいきいきサロン等の取り組みにより、高齢者になっても安心して暮らせる環境となっています。

〇小学校では、いざという時に命を守るための疑似体験として地域の役員も参加して防災スクールと救急救命講習を行っています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」等となっています。また、福祉に関する情報の入手や、災害時対策が課題となっています。

〇長島地区内でも、市街地と農村地では抱えている課題が異なります。農村地では移動手段や買い物への支援が求められています。

〇市内の他の地域と比べると子どもが多い一方、近年は少子化の傾向もみられ、居場所や交流の場づくりなど、子どもを育てやすい環境づくりがより一層求められています。

〇高齢化の進行により、自治会役員や民生委員、福祉委員等の地域の活動者の担い手不足が課題となっています。

〇世帯やライフスタイルなどの多様化が顕在化しており、自治会に加入しやすいしくみづくりや地域の交流機会の確保、住民の実態やニーズの把握が必要となっています。

▶ めざす姿

心やすらぐ　心つながる　人が集うまち　おさしま

▶ 今後の取り組み

①　子育て家庭への支援

Ciao カフェ等の子育て世代が交流できる場や若者が参加しやすい行事の実施、遊び場の確保等により子どもが地域で健やかに育つことができる環境づくりを継続します。また、ひとり親家庭への支援、預かりサービスの充実、子ども食堂の設置など行政や社協と連携して子育て支援を行うとともに、既存のサービスについての情報を発信します。実際にどれくらいの人が支援を必要としているか、長島での必要な行事などニーズ調査を行います。

②　見守り活動の促進

高齢者等への見守りが充実できるよう、各自治会内で要支援者等の把握や、福祉委員・自治会員・民生委員間での情報共有を進めます。また、DIG 訓練を継続することで地域での見守り活動の活性化を図ります。

③　自治会活動の活性化

自治会未加入世帯が増加し、サービスや支援が受けられない、情報が入手できないことが課題となっているため、行政や社協と連携し移住者を中心に加入を働きかけます。地域ごとの話し合いや地域内の情報共有により、自治会の役員だけでなく一人ひとりの住民が地域に関われるしくみづくりを進めます。また自治会に入りやすい体制をつくっていくために自治会のスリム化をめざします。

④　買い物・移動支援の充実

農村部に住むひとり暮らし高齢者等、買い物や移動、通院に支援を必要とする人たちへの移動販売や移動支援を提案します。また、企業、事業所の車輌を社会貢献として活用させていただく取り組みを拡充します。

⑤　防災体制の強化

住民みんなで参加できる防災訓練や、DIG 訓練を通じた災害図上訓練、災害時の要支援者の安否確認の強化により防災意識を高めます。

⑥　地域の交流活動の促進

子どもから高齢者まで世代や性別、国籍等を超えて交流できるような機会を設置し、地域のつながりの強化のため、学校との連携による交流活動、ボッチャを利用した世代間交流を図ります。

東野地区

▶ 地区の概況

東野地区は、阿木川・飯沼川・定蓮寺川が流れ、田園が広がる豊かな自然に囲まれた地域です。おいしいお米や地域の７割を占める山林から生産される木材ブランド「東濃桧」が有名となっています。また、史跡が点在し、歴史を感じられる地域ともなっています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	1,643 人
・世帯	⇒	637 世帯
・年少人口比率	⇒	12.6%
・高齢化率	⇒	36.0%
・民生委員児童委員	⇒	６人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇山林や田園などの自然に恵まれた環境で、静かにのんびりと暮らせる環境となっています。豊かな自然環境を活かしたアウトドアレジャーを推進し、地域の活性化を図っています。一方で、市街地に近く買い物等にも便利です。

〇地区内に３つの河川が流れているため、水がきれいで豊富です。

〇昔からのご近所のむすびつきが強く、集まる機会も多くあります。地域の範囲もコンパクトであるため、誰とでも顔見知りになれます。

〇「WRC フォーラムエイト・ラリージャパン 2022」や「WOMEN’S RALLY IN ENA2022」の会場となりました。

〇犯罪が少ないことや子どもへの見守り活動が行われていることから、安心して暮らせる地域となっています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」等となっています。また、暮らしやすいまちづくりのためには「総合相談窓口の充実」が求められています。

〇高齢者への生活支援や見守りの充実に向けては、集まれる場づくりやボランティアの育成が求められています。また、必要な支援の把握や検討が必要です。

〇高齢者等の交通弱者に対する移動手段の確保が課題としてあげられています。

〇少子高齢化が進み、耕作放棄地や空き地の増加がみられます。防災・防犯面や景観の保全の点からも解消が求められます。

〇ふれあいサロン・ふれあい喫茶を実施してきましたが、担い手や参加者の高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響等により継続が困難となっています。サロン等の実施方法の検討や、移動手段の確保、若い世代の交流の場への参加促進が求められています。

▶ めざす姿

みんなで考え　みんなでやろまいか　東野

▶ 今後の取り組み

①　高齢者への生活支援や見守り

ひとり暮らし高齢者や介護者も含めた認知症の人への見守り活動、認知症への理解を深めるため認知症サポーター養成講座推進の継続、「ふれあい食事サービス」等の配食やごみ出し、草刈り等の簡単な生活支援等、高齢者に対する支援ができるきっかけづくりに努め、高齢者の生活を盛り上げていけるような支援の検討を進めていきます。また、求められる支援について隣近所と情報共有を図ります。さらに、いつまでも元気で暮らせるよう、さまざまな形態のサロンができるしくみづくりや介護予防教室等の実施を進めます。

②　移動手段の確保

高齢者の移動や買い物を支援するため、目的地別の巡回バスや、移動販売等の活用を検討します。既存の公共交通機関のバリアフリー化や、高齢者の移動支援の利用に対する助成等を行政に働きかけます。また、移動支援ができる担い手のきっかけづくりを進めていきます。

③　若者や子育て家庭の定住促進

人口減少や少子高齢化への対策として、若者や子育て家庭が住み続けたいと思える地域づくりを進めます。子育てのサロンや、若者への結婚・出産支援、安全な通学路や子どもの遊び場の確保等に努めます。東野に住むことのメリットを発信するきっかけづくりを進めます。また、空家対策など住みやすい環境を整備していきます。

④　地域の防災力の強化

増加する空家への対策も視野に入れ、地域の防災体制を強化するため、振興事務所や自治連等と福祉協力員の連携等による災害時の見守り体制の整備や、災害マップの更新に努めます。また、自治会内等のご近所同士で災害時にできることの共有に努めます。

⑤　多様な交流機会の設置

地域でさまざまな人が交流できるよう、高齢者・障がいのある人のふれあいサロン・ふれあい喫茶を継続して実施するとともに、誰もが集まれる居場所や、地域にある活動を通じて多世代が交流できる場所の設置を検討します。多世代と交流できる居場所を増やし気軽に相談できる体制を整備します。

三郷地区

▶ 地区の概況

三郷地区は、中央アルプスを望む美しい田園風景が広がる、緑豊かな地域です。JR 武並駅や中央自動車道恵那 IC へのアクセスも良く、市街地からも近いことから、比較的移動がしやすくなっています。道の駅「らっせぃみさと」は多くの人がさまざまな地域から来訪するため、交流の拠点ともなっています。文化財などの歴史的な資源も豊富に有しています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	2,249 人
・世帯	⇒	852 世帯
・年少人口比率	⇒	11.0%
・高齢化率	⇒	39.9%
・民生委員児童委員	⇒	９人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇恵那市の西部に位置し、中央アルプスが眺望できる雄大な田園風景を誇る町です。

〇棚田や渓谷に恵まれた景観や四季の変化や歴史を感じられる自然等の魅力があり、恵那市内で移住したいまちの上位となっています。

〇令和３年にリニューアルオープンした道の駅「らっせいみさと」は地域内外から人を集め、賑わいを生んでいます。市街地にも近く、自動車があると生活しやすい環境となっています。

〇「みさと愛の会」をはじめ地域でのつながりが強く、行事への参加や多世代での交流も盛んです。元気な高齢者が、積極的な声かけや農作業等、さまざまな面で活躍しています。

〇獅子舞や歌舞伎等の伝統文化が受け継がれています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」等となっています。また、災害時に自力で避難できないと回答している割合が高くなっています。

〇「みさと愛の会」を中心として地域福祉活動を実施していますが、活動やサービスの周知が必要です。また、社協や福祉事業所、関連機関との連携強化が求められています。

〇地区の行事により交流を図っていますが、子どもの居場所や保護者がつながることのできる場や機会が求められています。

〇支援が必要な人の情報を民生委員が把握していますが、民生委員の負担が大きくなっていることや、個人情報情報の関係で地域住民の情報が共有できないことが課題となっています。

〇福祉委員がいないため、福祉について中心になって企画し、実践していく人材が不足しています。

▶ めざす姿

豊かな自然と　つよいつながりのまち　三郷

▶ 今後の取り組み

①　地域の助け合いの活性化

地域全体で支えあうまちづくりをめざし、みさと愛の会を中心とした地域福祉の体制強化、自治会と民生委員の連携や、福祉委員の設置検討、地域の福祉活動の周知・啓発など、地域の組織体制の強化と参加促進、担い手の確保を図ります。

②　子育て支援の推進

子どもが地域と関わりながら成長できるよう、地域で遊べる場や、保護者がつながる場の設置を進めます。また、子どもたちが地域の避難訓練や祭り等に参加しやすいよう働きかけます。

③　若者や移住者が暮らしやすい地域づくり

地域の行事やイベント等に若者や移住者が参加しやすいしくみづくりや、移住者が地域になじめるような相談支援体制づくり、空家を活用した移住支援対策など、さまざまな人が地域で関わり合って暮らしていける環境整備を進めます。

④　地域での見守り活動等の推進

外出時の隣近所の誘い合いや声かけ、支援を必要とする人の情報共有、趣味や仕事を通じた集まりの充実、若者の見守り活動への参加促進、住民カード・マップの充実等、地域が一体となって声をかけ、課題を把握することで、見守りや支援につなげられる体制を強化します。組寄合いのような交流事業を行っていくことで若者の地域参加が自然にできるしくみづくりをめざします。

⑤　移動手段の確保

自動車を運転できない人に対して、市街地に誘い合って出かける「買い物ツアー」の実施や、運転手ボランティア、担い手の確保等、移動や買い物の支援を検討します。

武並地区

▶ 地区の概況

武並地区は、JR 武並駅を有し、主要幹線道路が走る交通の要所となる地域です。瑞浪市とも隣接していることから西の玄関口ともなっています。また、工業団地「恵那テクノパーク」「恵那西工業団地」は、地域の雇用の受け皿となっています。江戸末期から俳句が盛んで、多くの歌碑がみられる歴史・文化が香るまちでもあります。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	2,981 人
・世帯	⇒	1,244 世帯
・年少人口比率	⇒	11.5%
・高齢化率	⇒	32.7%
・民生委員児童委員	⇒	８人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇JR 武並駅や、主要幹線道路等により、通勤・通学や買い物の利便性が高くなっています。渋滞、事故等の交通課題の解消や、リニア中央新幹線の開業に向け、恵那市と瑞浪市をつなぐ国道 19 号瑞浪恵那道路の整備が進められています。

〇里山やハス棚田、緑に囲まれた散歩道等、美しい自然景観に恵まれています。また、中山道の趣のあるまちなみ等、歴史ある風景もみられます。

〇岐阜県内でも有数の「岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場」があり、スケート場を活用した活動も行われています。

〇地域活動や行事が団結して行われ、住民同士のつながりが強くなっています。福祉協力員や民生委員が活躍しています。

〇認定こども園が充実しており、子どもの見守りが行われるなど安心して子どもを育てることができます。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」等となっています。

〇民生委員を中心に見守り活動を実施していますが、今後活動をさらに拡充するためには、福祉委員の協力や、関係者間での情報共有が必要です。

〇地域における多世代交流の機会や気軽に集える場の設置が求められています。

〇サロン活動や地域生活支援活動団体「支え愛の会」の周知啓発を行っていますが、担い手不足が課題となっています。

〇子育てを地域で支えあえる関係づくりが求められています。

▶ めざす姿

みんなでつくるたのしい　武並

▶ 今後の取り組み

①　地域での見守り活動等の拡充

ひとり暮らし高齢者、認知症の人やその家族等とのコミュニケーションを図り、民生委員、福祉協力員が協力して地域の見守り活動を充実します。介護予防活動やサロン活動等への参加を働きかけ、充実したサロン活動の啓発を行い、他の地域でのサロン活動の充実をめざします。また、普段から声かけをして、近所の安否確認を進めていきます。

②　買い物や通院など交通弱者への配慮

地域の福祉事業所とのマッチング等により、良い移動手段の確保について検討を図り、地域の販売店にお願いする買い物支援や移動販売の充実を図ります。また、町内外の移動ボランティアの確保、配食サービスの充実等、地域内外で交通弱者が移動に困らないように検討します。

③　地域の交流機会の充実と情報発信の促進

地域で支援を必要とする人等を把握し、サービスや支援にむすびつけるため、自治会での班長会などを通じて情報の共有を図ります。武並の良い活動や魅力を地域内外に周知する手段の検討を図ります。また、若者が参加しやすいイベントの実施や参加促進、多世代が定期的に集まるラジオ体操などにより地域の連携を強めるとともに、若者等の定住促進を図ります。また、クリスタルパークでのお祭り、多世代交流、マルシェ等を活用するなど武並にある資源を活用し、地域での交流の機会を検討します。

④　ボランティア活動の推進

「支え愛の会」の周知や、遠慮せずに利用できる生活支援団体であることの PR、一人暮らし高齢者の方に出向いてニーズの掘り起こしのための検討を図ります。また、ボランティア活動者を地域で支えられる意識を醸成します。

⑤　子どもや子育て世代への支援（乳幼児学級、行事への住民参加、学童保育など）

見守りのある環境でコミュニティセンターが活用できるよう、ボランティアのマッチングを進めた居場所づくりや、子育て世代の地域との関わりの促進により、子育て支援の充実を図ります。

笠置地区

▶ 地区の概況

笠置地区は、笠置山、木曽川、大井ダム、笠置ダムに囲まれ自然環境に恵まれた地域です。国指定の文化財「ひとつばたご」等の豊かな自然を活用した観光地を有しており、地域外からの来訪も多くなっています。近年は地形を活かしたボルダリングの普及や、ゆずの特産品開発等の住民活動が行われています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	1,146 人
・世帯	⇒	437 世帯
・年少人口比率	⇒	8.2%
・高齢化率	⇒	44.6%
・民生委員児童委員	⇒	６人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇笠置山、笠置峡、木曽川等の風光明媚な自然環境に囲まれ、心穏やかに暮らせる環境となっています。笠置峡は東京 2020 オリンピック・パラリンピックホストタウン事業においてポーランド共和国カヌー連盟の事前キャンプ地となりました。

〇各地区の神社での行事では、中学生が参加するなど活発に行われています。伝統を大切にする風習が息づいています。

〇令和元年６月に発足した「笠置女子会」は子育て世代の母親たちが子どもたちと楽しみながら地域を知り、好きになることを目的に活動しています。

〇「笠置山クライミング」には県外、国外からも若者が訪れています。今後ボルダリングにより地域の活性化が期待されます。

〇柚子の産地でもあり、地域の新しい特産品としてさまざまな加工品が開発されています。

〇自然に囲まれていますが、市街地とも適度に近い距離感となっています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「防犯体制の整備」となっています。また、ボランティア活動等へのきっかけづくり、災害時の避難支援が課題としてあげられます。

〇笠置は河合、姫栗、毛呂窪と３つの地区で笠置町となっており、町内の面積が広く、サロンなどの移動手段が課題となっています。

〇福祉協力員の役割が定着し、重要な位置づけとなっているため、他の活動者との連携が求められます。

〇高齢者だけでなく、障がいのある人等への見守りも充実していく必要があります。

〇令和２年度から始まった移動支援「みかさぎ」について、周知や運用に向けた検討を進めて行く必要があります。

▶ めざす姿

自然の中で人がつながる　心豊かなまち　笠置

▶ 今後の取り組み

①　若い世代の地域活動への参加

若者が地域活動に参加しやすいよう、活動が負担になり過ぎないための工夫や、多世代がつながるクライミング体験によるボルダリングの活性化、カヌーの親子体験などのイベントの実施、子育て世帯の支援等を検討します。また、地域文化を次世代に伝承するための活動を進めます。

②　見守り活動の拡充

福祉協力員の見守り活動や青色パトロール等を継続して実施し、高齢者や子ども、障がいのある人が安心できる地域づくりを進めるとともに、名簿等で把握している世帯以外（別荘地区等）の見守りや災害時対策、防犯の取り組みを進めます。

③　地域での支えあい活動の推進

地域活動やボランティア活動の活性化を図るため、壮健クラブの人材活用や、役員の見直し、ボランティア活性化のための活動や生活支援の検証を進めます。また、地域でボランティアをコーディネートできるしくみづくりを検討します。さらに、地域のむすびつきがより強くなるよう、住民みんなが参加できる活動等を進めます。

④　移動手段の確保

通院や買い物等での高齢者等の移動を支援するため、移動販売を活用し、見守りも一緒にできるしくみづくりを検討します。また、高齢者移動支援事業「みかさぎ」の周知と活用を進めます。

⑤　文化活動や産業・観光振興等の取り組みを通じた地域活動の活性化

伝統芸能・史跡の保存や継承、ゆず製品の開発等、地域との関わりがうすい人でも関心が持てる活動を通じて、地域のつながりの構築・強化を図ります。

中野方地区

▶ 地区の概況

中野方地区は、東濃の秀麗「笠置山」と「日本の棚田百選」の一つである坂折棚田がある美しい農村景観が広がる地域です。住民の自発的な活動が盛んに行われており、市内外からの視察も多くなっています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	1,448 人
・世帯	⇒	551 世帯
・年少人口比率	⇒	10.6%
・高齢化率	⇒	43.4%
・民生委員児童委員	⇒	６人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇全国に誇れる坂折棚田を中心として地区内で生産されるおいしいお米、日本一をめざす広大な栗園等、自然が豊かで暮らしやすい環境となっています。

〇「恵那笠置モーターパーク」を中心にモータースポーツによるまちづくりが推進されており、「WOMEN’S RALLY IN ENA2022」の会場となりました。

〇地域の福祉拠点、交流の場である「ふれあいセンターまめの木」を中心に、地域生活支援活動団体「まめに暮らそまい会」のボランティア活動、地域移送サービス「おきもり」等、自立したまちづくり活動が盛んで、福祉、農業、観光等、さまざまな面で支えあいの体制が構築できています。

〇学童保育が、小学校に隣接する「ふれあいセンターまめの木」に開設されており、支援員も充実しています。

〇診療所が２ヵ所、歯科医院が１ヶ所と、医療施設が充実しています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域の救急医療体制の充実」「移動手段の確保」となっています。

〇地域活動への参加者に偏りがあるため、積極的に広く声をかけ、まずは地域への関心を持ってもらうことが求められます。特に、教室は男性参加者が少ないことが課題となっています。

〇さまざまなかたちで見守り活動を実施していますが、さらなる充実に向けて、方法の検討やしくみづくりを進めて行く必要があります。

〇学童保育の支援員、「おきもり」の運転手、「まめに暮らそまい会」のスタッフ等、後継者の育成が必要です。

〇これ以上の人口減少、高齢化を食い止めるためにも、子育て世代が住みやすい環境づくりが求められます。

▶ めざす姿

いつまでもまめにくらそう　中野方

▶ 今後の取り組み

①　住民の地域参加の促進

高齢者等が気軽に参加しやすい活動として、「マレットゴルフ」や「ボッチャ」、「コミュニケーション麻雀」への参加を促進します。また、住民がご近所や地域とのつながりを持つきかっけとして「見守りマグネットシート」の活用や、SNS による地域の情報発信、日常的な声かけ等、地域への関心を高める取り組みを進めます。移住者の方が持つ新鮮な意見を取り入れつつ、他の地域の良いところを参考にしながら、多世代の地域参加を進めます。

②　高齢者の生きがいづくり、見守り支援の充実

高齢者を対象とした行事等の拡充、高齢者の食事会、「ふれあいセンターまめの木」の気軽な活用等、外出できる多様な機会づくりを進めます。

SOS を出さない人や、見守りを遠慮する人への対応として、「まめに暮らそまい会」と福祉委員、民生委員が連携した見守り活動を実施するとともに、引き続き定期的に事例検討会を実施し、情報共有や先進事例の学習を進めます。また、県のアドバイザーによる「見守り支援の勉強会」の実施、日中独居になる方のように今まで把握できなかった見守りが必要な方の掘り出しを進めます。

③　地域の交流機会の充実

地域の交流の場「ふれあいセンターまめの木」等を活用し、知識や経験豊富な高齢者が先生になり、わら細工や昔のおもちゃづくり等を若者や子どもたちに教える機会を設けます。老若男女が集まる機会を通して、子育て世代や、地域のさまざまな世代のつながりづくりを進めます。また、既存の組織の中で活動をむすびつけていきます。サロン第３木曜会では男性が楽しめる取り組みを工夫していきます。

④　高齢者の移動手段の充実

自ら運転することが困難な高齢者が円滑に移動できるよう「おきもり」の利用を一層促進します。また、地域独自の移送サービスである「おきもり」のボランティア運転手の充実を図ります。

⑤　地域の情報共有・情報発信の強化

日常的な隣近所同士のコミュニケーションにより地域の情報共有を促すとともに、中野方の魅力や活動を地区内外へ発信することで地域としての誇りの醸成を図ります。

⑥　地域福祉を担う後継者の育成

店舗や医療機関など人が集まるところに「おきもり」運転手募集や「まめに暮らそまい会」などのボランティア募集のチラシ等を配置し、担い手を増やす工夫を行います。

飯地地区

▶ 地区の概況

飯地地区は、恵那市の北西部に位置し、平均的な標高が約 600 メートルとなる高原地です。古くから歌舞伎が盛んであり、文化財に指定された史跡が多く残るなど歴史文化を感じられる地域です。人口が 600 人をきり、恵那市内でも人口が最も少ない地区となっています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	572 人
・世帯	⇒	255 世帯
・年少人口比率	⇒	7.5%
・高齢化率	⇒	45.5%
・民生委員児童委員	⇒	６人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇山地や河川に囲まれた高原であるため夏でも涼しく、空気や水がきれいです。また、白とうもろこし、いもこねもち、するめのこうじづけ、こんにゃく、いのしし等、地域の自然を活かした食べ物がおいしくいただけます。

〇キャンプ場など、大自然を満喫できる施設が整備されています。

〇見守り活動が行われている等、安心して子育てできる環境となっています。

〇歌舞伎や太鼓などの伝統芸能を大切に継承しています。

〇人口は少ないですが、人と人の距離が近いため地域が一つの家族のような雰囲気です。

〇地域の発展について考えている人が多くおり、まちづくりの活動に活気が出てきています。近年では移住者への支援も積極的に行われています。

〇地域の行事やイベントが多く行われています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「健康づくり・生きがいづくり・介護予防体制の整備」等となっています。また、地域活動への人材の確保、若者の地域参加の促進が課題としてあげられています。

〇ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加により、住民同士による見守りや支えあいが困難となっています。生活支援や移動支援の充実に向けたしくみづくりが必要です。

〇民生委員の負担が大きくなっており、地域や社協との協力が求められています。

〇地域の文化を担う人材の確保や、魅力や情報の効果的な発信が必要となっています。

▶ めざす姿

いい笑顔　いい自然　じょうぶで　みんなが支え合い
思いやりのあるまち　いいじ

▶ 今後の取り組み

①　子育て世帯や、若者、移住者への支援

「寺子屋」の継続的な実施や、子育てサロン、通学支援、学童保育、一時預かりなど、子どもや子育て世代が住みやすいまちづくりを進めます。また、移住者への支援を行政とも連携して行い、若い移住者が暮らしやすい環境をつくります。

②　見守り活動などの高齢者等の生活支援

民生委員の見守り活動の強化、ご近所同士の見守り活動を進めていきます。民生委員以外も見守り活動に関われるよう、住民・遠方に住んでいる家族の見守りに対する意識の醸成を図ります。高齢者だけでなく子どもや障がいのある人等の見守りも進めます。

また、ひとり暮らし高齢者や、認知症の人、高齢者のみの世帯が求める支援を把握し、関係者間で情報共有するとともに、配食サービスや家事援助、高齢者サロン等の実施、生活支援のためのボランティア育成により安心して生活できるよう支援します。

③　地域での支えあい・地域活動の拡充

子どもや高齢者、障がいのある人、移住者等、あらゆる住民が地域で支えあい、安心して暮らせるよう、地域の交流機会や支えあいの意識づくりを進めます。そのため、各年代の結束を高める機会や伝統文化の保存活動を通じた交流等の多様な機会をつくり、新しい拠点を活用して交流や気軽に相談できる場をめざします。また、社会資源が少ない地域なため、地域の社会資源を地域の人に知ってもらう活動を行います。

④　移動・交通対策の充実

地域の移動手段である「いいじ里山バス」を活用した買い物支援サービスや、みんなで市街地に買い物に行く「買い物ツアー」の実施を検討し、高齢者をはじめとする交通弱者の移動や買い物を支援します。

⑤　地域の魅力を伝える活動の推進

人口減少への対策や、地域への愛着の醸成として、SNS を活用した地域の魅力についての情報発信や、特産品の開発、山林や里山の保全活動、地歌舞伎、飯地音頭などの伝統文化の保存、するめこうじ、ほうば寿司、おかずみそなどの食文化の継承等の活動に地域が一体となって取り組みます。

岩村地区

▶ 地区の概況

岩村地区は、日本三大山城の一つである岩村城跡と重要伝統的建造物群保存地区を有する歴史あるまちなみが残る地域です。また、「農村景観日本一」と称される田園風景が広がっています。また、丸善創立で有名な早矢仕有的や、植物学者の三好学、実践女子大学創立者の下田歌子など岩村町にゆかりのある著名人もいます。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	4,673 人
・世帯	⇒	1,879 世帯
・年少人口比率	⇒	10.9%
・高齢化率	⇒	34.8%
・民生委員児童委員	⇒	12 人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇岩村城跡や重要伝統的建造物群保存地区の歴史ある古いまちなみにより、趣のある風情となっています。偉人も多く輩出しており、テレビドラマのロケ地となったこともあり、多くの観光客が訪れています。

〇第 29 回全国山城サミット恵那大会で日本百名城に数えられる石垣の城「岩村城」が紹介されました。

〇「農村景観日本一」である美しい田園風景がある一方、買い物や飲食ができる店舗もそろい、生活しやすい環境となっています。

〇近所づきあいが深く、顔の見える関係性が築けているため、支えあい・助け合いの風習があります。移住者も受け入れやすい環境となっています。

〇地域ぐるみの行事が活発に行われています。

〇教育環境が整っており、子どもを育てやすい環境です。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」等となっています。また、高齢者が集まる居場所が少ないことや、災害時対策が課題となっています。

〇新型コロナウイルス感染症の影響等により、交流や行事が減少し、地域の人のつながりの希薄化が課題となっています。

〇新たな商業施設が立地する一方、昔からの商店が閉店するなどにより、高齢者等の交通弱者の買い物が不便となっています。

〇移住者の増加や自治会加入率の低下により、地域との関わりがうすい住民も増加しているため、地域参加の促進や福祉に関する情報提供が必要です。

〇自然の中で子どもが遊ぶことができる機会、子どもや親同士の交流機会の減少が課題となっています。

〇ボランティア活動者の高齢化により、担い手の確保が必要となっています。また、やりがいを持って取り組むことができるようなしくみづくりが求められています。

▶ めざす姿

つながるまち　いわむら
（人が 歴史が 地域が すべてにつながる）

▶ 今後の取り組み

①　高齢者等の生きがいづくりや生活支援の充実

「ふれあいいきいきサロン交流会」の充実や、壮健クラブの活用促進、ひとり暮らし高齢者に向けた食事会や健康づくりの機会の提供等により、高齢者の生きがいづくりや閉じこもりの防止に取り組みます。サロンでの取り組みを生きがいづくりにしていきます。

また、福祉委員や民生委員等が連携した見守り活動や、地域住民が主体となった移動や通院、移動販売の活用、ごみ出しや電球交換等のちょっとした困りごとの手伝い等、高齢者が安心して生活できる支援に取り組みます。

②　移住者を含めた交流づくり

子どもから高齢者まで、移住者を含めて地域のつながりが深くなるような交流事業を実施します。サロン活動交流事業や多世代交流事業、町内会等への参加促進を進めるとともに、空家等を活用して気軽に集まって会話ができる場の設置を検討します。イベントを行うことで移住者が自然に地域とのつながりを持つことができています。移住者を地域で歓迎し、迎え入れていることがわかる取り組みを進めます。

③　地域ぐるみの子どもや子育て世代への支援

地域で子どもがのびのびと遊ぶことができるよう、「ホットいわむら」や岩村地域自治区運営協議会等と合同で、子どもを見守り育てる意識を醸成します。学童保育等の充実や、子どもが自然の中で遊ぶことができるよう、子育てしやすい環境づくりを進めます。

④　ボランティア活動の活性化

地域のボランティア活動がより活発に行えるよう、担い手の育成や利用する人が使いやすいシステムづくりに努めます。行政や社協等と協力して、新たにボランティア活動ができる場を確保します。また、小中学校の頃から福祉教育を実施していきます。

山岡地区

▶ 地区の概況

山岡地区は、農林業、陶土、寒天の産業が古くから盛んで、豊かな自然環境に恵まれた地域です。厳しい冬の寒さの中で生産される細寒天は、日本一のシェアを誇ります。飯高観音や花白温泉、道の駅「おばあちゃん市」、山岡陶業文化センターなど、地域の自然や歴史、産業、住民活動が活かされた施設には地域外からも人々が訪れます。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	3,873 人
・世帯	⇒	1,523 世帯
・年少人口比率	⇒	8.3%
・高齢化率	⇒	42.1%
・民生委員児童委員	⇒	16 人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇朝晩の寒暖の差が大きいことから寒天の生産が有名です。特産品である細寒天や、土地の特性を活かした陶業などの産業が地域に根づいています。また、道の駅「おばあちゃん市」やサロン活動でもそれらが活用されています。

〇緑が深い山里で、四季折々の変化を暮らしの中で楽しむことができます。

〇「田んぼ de アート」は、平成 27 年から始まり、毎年テーマを決めて実施し、鑑賞イベントも行っています。

〇近隣との交流が盛んで親せきのようなつきあいがみられます。

〇地域の伝統行事が継承され、伝統文化を大切にする心が育まれています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」等となっています。また、地域活動を広げるためには若い世代への参加の呼びかけが求められ、生活で不安なこととしては老後の生活があげられています。

〇地域のサロン・日赤奉仕団・ボランティア等では、後継者の育成や、人材の確保、男性参加者が少ないことが課題となっています。

〇高齢者等の交通弱者に対する移動手段の確保や、配食サービスの拡充が求められています。

〇毎月行われる区会では、福祉課題について話し合う機会が少ないため、情報を共有できる体制が求められています。

〇令和４年度に実施した「さとやま食堂」のような多世代交流の活性化が求められていますが、福祉人材の確保が課題となっています。

〇人口減少や少子化が進行し、子どもや若者が減少しています。まちを活気づけていく取り組みが求められます。

▶ めざす姿

いっしょに　元気にしよう　さとやま　やまおか

▶ 今後の取り組み

①　あらゆる人に対する見守りや生きがい活動等の拡充

ひきこもりがちになっている人や、マレットゴルフや「さとやま食堂」での手伝い、壮健クラブによる活動のような地域性のある取り組みを男性の地域活動参加のきっかけづくりにします。また、生きがいづくりや見守り活動として、地域で集まりやすい場づくりや、積極的な声かけ等を行います。

②　買い物や通院など交通弱者への配慮

運転が困難な人の日常生活を支援するため、サロンでニーズ調査を実施し、地域にとって本当に必要なバスの停留所を検証したり、デマンドバスの活用促進を検討します。また、移動販売や配食サービスの継続に力を入れ、支部活動やサロン活動への移動手段の検討に努めます。

③　住民自治の意識の醸成

住民の「行政に頼るだけでなく自分たちでもやる」という意識を育て、地域活動への参加を促進します。また、地域の課題を話し合い、解決するしくみづくりや地域の活動を牽引する人材を育成し、地域の組織体制を強化します。民生委員と福祉委員の連携を図り、消防団との交流会によりDIG訓練を通して防災力を強化していきます。

④　地域のつながりや連携の強化

まずは向こう三軒両隣とのつきあいを深め、家族のように助け合える地域づくりを進めます。「さとやま食堂」を軸とした多世代交流の実施、地場産業等を活かしたイベントの実施や、サロン活動と壮健クラブ活動の連携等、既存の組織や活動についても連携・協力を図ります。

⑤　若者や子育て世代への支援

若者や子育て世代が地域に関わるきっかけとして、「田んぼアート」や「さとやま食堂」などの多世代交流イベント、子育て世代同士や多世代で交流できる機会づくりに努めます。また、自治会への参加を促進するため、意義ややりがい等を伝えていきます。

「山岡みまもり隊」「地域安全パトロール」「子ども安全みまもり隊」の「みまもる目」活動により、子どもが地域で安心して、遊べる、学べる環境をつくります。

明智地区

▶ 地区の概況

明智地区は、恵那市の南部に位置し、愛知県豊田市と隣接する地域です。古くは窯業により栄えていました。市街地には明智川が流れ、周囲を山林に囲まれています。昭和 59 年に住民自らボランティア活動により立ちあがった「日本大正村」は人情味あふれる大正ロマンのまちとして観光客が訪れています。その他にも歴史や文化を感じる資源が多く残っています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	4,835 人
・世帯	⇒	2,001 世帯
・年少人口比率	⇒	8.2%
・高齢化率	⇒	43.8%
・民生委員児童委員	⇒	16 人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇明智の森・下ヶ渕・千畳敷公園などの豊かな山林と里山に囲まれ、水や空気がきれいで自然が美しい地域です。

〇日本大正村の古いまちなみや、明知城跡等の史跡、山本芳翠や明智町で産まれたと言い伝えのある明智光秀といった偉人の存在により、歴史的な趣を感じることができます。また、明知鉄道の始発・終着駅である明智駅は日本大正村の玄関口となっています。明知鉄道存続に向けたさまざまな取り組みが行われています。

〇第 29 回全国山城サミット恵那大会で全国屈指の土の要塞「明知城（白鷹城）」が、恵那市の山城として紹介されました。

〇若者から高齢者まで地域で元気に明るく活動しています。同級生同士のつながりも強く、自治会活動や近所づきあいも盛んです。

〇教育機関や医療機関、福祉施設が多く、商業施設もあるため安心して暮らせる環境となっています。

〇「ちょっとおんさい祭り」「光秀まつり」「ぎおん祭り」等の行事が継承されています。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「地域医療体制の充実」「防犯体制の整備」「移動手段の確保」となっています。また、生活で不安なこととしては老後の生活があげられています。

〇見守りが必要な人の情報共有や、さまざまな媒体を活用した地域とつながるしくみづくりが求められています。

〇少子高齢化や地域のつながりの希薄化が進む中、サロンや多世代交流の充実が求められています。

〇自治会ごとの福祉委員の活動など、地域のさまざまな組織の体系化が求められています。

〇デマンドバスの周知や運用に向けた検討を進めて行く必要があります。

〇恵那市における SDGs の取り組みを明智でも推進していきます。

▶ めざす姿

あかるく　けんこうな　ちいき作りをすすめるまち　明智

▶ 今後の取り組み

①　地域での見守り活動などの充実

子どもへの見守り活動「明智っ子笑顔見守り隊」を継続して行うとともに、見守り活動に努めます。

高齢者の見守りについては、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を中心に見守り体制の強化を図ります。カフェなどのサロン活動の充実や、福祉委員と民生委員の連携、日頃からの住民同士のあいさつ、郵便局や新聞配達との協力により、誰もが安心できる地域をつくります。また、見守り活動を災害時にも活用できるよう、避難支援が必要な人の把握やマニュアルの作成、SNS を活用した高齢者の見守り支援の充実等に努めます。

②　若者の地域参加の拡充

若者が住みつづけたいまちとなるよう、地域への関心を高め、参加を促す取り組みを進めます。「日本大正村」を活用した若者主体のイベントの実施や、若者同士がさまざまな人と出会える場の提供、小中高生の地域活動への巻き込み、地域の行事への参加の働きかけ等の取り組みを進めます。

③　地域活動の組織整備

地域福祉懇談会の継続的な実施や、活動を継続していくことで全体のレベルアップや福祉委員の資質の向上や活動支援、地区役員への女性の登用等、地域活動がより盤石となるような組織づくりを進めます。

④　地域の情報発信・情報共有

地域の情報を住民が把握することができるよう、福祉サービス等の情報提供や、情報共有方法の検討を進めます。また地域の魅力を SNS の活用や明智だよりの充実により地域内外に発信し、住民の愛着を育むとともに移住・定住促進へもつなげます。

⑤　高齢者の生活支援

デマンドバスを活用した高齢者の移動の確保等支えあいのシステムづくりを進めます。

⑥　多様な住民交流の推進

年齢や性別、障がいの有無に関わらず誰もが集い、ふれあえるようなサロン活動やイベント等、交流の場や機会の充実をめざします。

串原地区

▶ 地区の概況

串原地区は、恵那市の南端に位置し、愛知県と隣接する地域です。緑豊かな景観となっていますが、山々により形成される急峻な地形により、道幅は狭く急勾配で、カーブが多くなっています。くしはら温泉「ささゆりの湯」や、奥矢作レクリエーションセンターなどでの都市交流、中山太鼓、歌舞伎などの伝統文化の保存・継承が進められています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	693 人
・世帯	⇒	300 世帯
・年少人口比率	⇒	8.5%
・高齢化率	⇒	50.4%
・民生委員児童委員	⇒	５人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇面積の 80%が山林で、串原七つの滝、奥矢作湖、湖畔の桜並木など緑豊かな美しい景観に囲まれています。

〇地歌舞伎、中山太鼓などの誇れる伝統文化が営まれ、子どもたちへも受け継がれています。

〇くしはら温泉「ささゆりの湯」や奥矢作レクリエーションセンター、キャンプ場等の施設が、住民の余暇活動の場や、地域外から人々が訪れる観光地となっています。

〇ハムやこんにゃく、トウモロコシ、トマト等の特産品があり、「へぼ」という独自の食文化も残っています。

〇ほとんどの人が顔見知りとなっているため地域のまとまりがあります。子どもの預かり等もご近所間で行われています。

〇ボランティアや奉仕作業などに積極的に参加する住民が多く、行事にも協力的です。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は、「ボランティア・市民活動の活動支援」「地域医療体制の充実」「移動手段の確保」となっています。また、福祉についての情報発信が弱いことが課題としてあげられています。

〇サロンへの男性参加者が少ないことが課題となっています。

〇自主運行バス「くしばす」の利用促進や運用に向けた検討を進めて行く必要があります。

〇新型コロナウイルス感染症の影響により実施ができなくなっていた行事の再開や、伝統文化の後継者不足が課題となっています。

〇地域活動やボランティアの担い手が固定化しており、担い手の確保や育成が必要です。また、支援が必要な人の情報の共有や、ニーズに合わせた支援を提供できるしくみづくりが求められています。

▶ めざす姿

自然と伝統文化が輝く　元気な郷　串原

▶ 今後の取り組み

①　高齢者の生きがいづくり・生活支援

高齢者がいつまでも元気で暮らせるよう、近い場所でのサロンの実施や、災害時を視野に入れた見守り活動、地域で連携しながら庭の草刈りや電球の交換など簡単な生活支援等に取り組みます。

また、男性も参加しやすいよう得意としている分野を取り入れ、壮健クラブとの連携や目的を持って活動できるような生きがいづくりとなるサロン活動の内容を検討し、男性の地域参加の充実を図ります。

②　移動・買い物支援の拡充

高齢者や障がいのある人等、交通弱者を支援するため、「くしばす」や自主運行バスの利用促進を図り、買い物や通院等への移動支援、移動販売の運行範囲の拡充への働きかけ等を行います。

③　伝統文化の保存活動を通じた地域活動への参加促進

地歌舞伎や中山太鼓、学校で取り組んでいる「ふるさと学習」等、歴史ある伝統文化の保存活動を子どもや若者等と一緒に取り組むことで、後継者を育成するとともに地域への愛着の醸成や地域のさまざまな活動に参加することを継続していきます。

④　地域のつながり・助け合いの強化

地域活動やボランティア活動がより活発となるよう地域独自のサービス、社会資源を活用することで助け合いを促し、活動を牽引する人づくりに取り組みます。

⑤　移住・定住促進施策と連携した地域づくり

人口減少や少子高齢化を食い止め、活気ある地域とするため、若者等への移住・定住促進を図ります。空家の活用や、地域の情報発信、移住体験施設の設置、農業体験などの取り組みを行政等と連携して行うとともに、活動を通じて地域のつながりの深化や移住者の地域参加を継続していきます。

上矢作地区

▶ 地区の概況

上矢作地区は、恵那市の南部に位置し、深い緑の山々と上村川に周囲を囲まれた地域です。かつては地形を活かした林業が盛んに営まれていました。愛知県豊田市、長野県平谷村、根羽村と隣接しています。医療・福祉施設が充実しており、いくつになっても健康で安心して生活できる支えとなっています。

〇統計データ〇（R4.8.31）

・人口	⇒	1,602 人
・世帯	⇒	718 世帯
・年少人口比率	⇒	6.9%
・高齢化率	⇒	52.7%
・民生委員児童委員	⇒	11 人

▶ 地区の魅力と課題

【地区の魅力】

〇濃い緑の山々と上村川の清流に囲まれ、自然の中でいきいきと生活することができます。

〇道の駅に「ENA DRONE STATION（エナ・ドローンステーション）」が開設され、ドローンを活用した地域の活性化がすすめられています。

〇国民健康保険上矢作病院、かみやはぎ総合保健福祉センター、歯科診療所、特別養護老人ホーム福寿苑、障害者福祉サービス事業所セルプかみやはぎなどが整備されており、住民の医療と福祉に対する満足度が高くなっています。

〇自治会活動や自発的なボランティア活動が活発に行われています。

〇子育てや教育に協力的な人が多く、子どもを育てやすい環境です。

【地区の課題】

〇アンケートによると、重点課題は「移動手段の確保」「総合的な福祉のまちづくりの推進」等となっています。また、地域活動の人材を確保することが求められています。

〇サロンへの男性参加者が少ないことが課題となっています。

〇交通弱者に対する移動手段の確保が求められています。定期バスの利便性の向上や、自主運行バスの運用に向けた検討を進めて行く必要があります。

〇ひとり暮らし高齢者や、高齢者のみの世帯だけではなく、高齢者全体に対しての支援が求められています。一方で、サロンや配食サービス等の担い手の確保が課題となっています。

〇近年空家が増加しており、防災・防犯の面からも対策を図ることが求められています。

▶ めざす姿

ほかほか　いきいき　誰もが安心　かみやはぎ

▶ 今後の取り組み

①　地域交流の促進によるつながりの強化

ふれあいサロンの継続や、道の駅や喫茶店、コミュニティセンター等を活用した交流機会の設置、移住者等の交流会の確保等住民が地域で集う機会の拡充を図ります。またウォーキング等の多様な形式での実施や、男女問わず地域住民が行っているボランティア活動の推進、サロンへの行き来がしやすいようデマンドバスの活用により、さまざまな人の参加を促します。地域住民が地域や自分たちのために行う自発的な活動を支援していきます。

②　買い物や通院など交通の充実

交通弱者等移動することが困難な人に対して、「上矢作町で使える高齢者・障がい者の日常生活支援サービス」という社会資源マップを活用して商店や移動販売を利用し、買い物の充実をめざします。コミュニティバス、病院の患者送迎バス利用の充実に取り組みます。

③　多様な高齢者支援の実施

配食サービスの継続など、在宅高齢者の認知症予防、総合保健福祉センターを活用した病状への対策の推進、これらを実施するための担い手の確保等に取り組みます。

④　地域住民みんなで子どもを見守ることができる地域づくり

子育て世代の転出が課題となっているため、のびのびと育てるよう学童の充実や未満児保育の強化、既存のサービスを周知し活用を促進するとともに、独自の子育て支援について地域で検討します。

⑤　防災・防犯対策の推進

防災訓練の充実や救命講習会の実施など、自主防災活動により住民の防災意識の向上を図るとともに、あんしんカード、あんしんマップの認知度向上を図り、活用を促進します。

倒壊が危ぶまれる家屋の適正管理、空家を移住定住に活用できるような取り組みの推進を図ります。また、避難場所を見直して自治区ごとに防災活動に取り組みます。